



ロボット(ダ・ビンチ)支援下手術を開始しました



前列：手術室の看護師
後列：左から外科の円城寺部長、泌尿器科の川村科長
泌尿器科の井上医師

現在、直腸がん、前立腺がん、骨盤臓器脱に適用しています。これらは保険適用されており、出血量が少なく、骨盤内の神経機能の温存に優れた術式であり、手術後の回復が早いと言われています。詳しいお話しは主治医にお気軽にお問い合わせください。下記のQRコードからご紹介の動画をご覧ください。

■ 直腸がんロボット手術
(外科)



■ 次世代の手術へ(泌尿器科)
～前立腺がんの全摘出術～



～骨盤臓器脱に対する
新しい手術治療～



第41回院内看護研究発表会の様子

第41回院内看護研究発表会が1月15日に新棟3階講堂で開催されました。会場では席の間隔を開けるなど感染対策がとられ、日頃の看護業務における問題点を研究した14題の演題が各部署から発表されました。コロナ禍に関連した発表では、コロナウイルス感染症に罹患した患者さんの不安やストレスの要因を調査した結果、家族や周囲の人たちに対する思いから発生していたという演題や、感染予防対策に着目し、適切に対応するため問診票などの見直しが必要であるといった報告などが発表されました。

第41回院内看護研究発表会 看護課題の改善に向けた 取り組みを発表



わたしの
家族

ICU 洞毛初美

『しゅしゅ』1歳の女の子です。晴れた日は抱っこでお散歩に行き、鳥を見ると大興奮でしっぽをフリフリします。おもちゃを持ってきて遊んで!とせがんだり、追いかけてが大好きな活発な子です。でも寝る時は布団に入ってきて、手をつないでくる甘えん坊です。毎日癒されています。

た。また侵襲的な検査や治療に対する患者さんの不安を和らげるため、事前説明にパンフレットや動画を活用した結果、検査内容などを理解していただくのに有用であったとの報告もありました。
猪瀬看護部長は総評後、「2040年には今以上に高齢の患者さんが増えると予測されています。今後も日々の看護を振り返る姿勢を職場内に定着させ、課題の研究に取り組んでください」と述べました。

今月の表紙

富士市が撮影された岩本山公園の写真です。この富士山の眺めのように、早く清々しい気持ちを取り戻したいものです。

令和四年

新しい年を迎えて

院長 富満 弘之



明けましておめでとうございます。2022年（令和4年）が始まりました。寒いお正月ではありませんが、天候には恵まれ、ゆつくりと過ごされた方も多かったと思います。また、コロナ感染者数が減少していた年末年始でしたので、これまで通りでないとしても、ご家族、ご親族で集まられた方や、参拝に出かけられた方もいらしたでしょう。このような時間の中で様々なことを感じ、新たな一年に対する思いをめぐらした大切な時間ではなかったでしょうか。

PCR検査を院内で実施し

落ち着いて診療

2021年は前年に続き、新型コロナウイルス感染症に振り回された一年でした。東京をはじめとする関東圏の話になりますが、年末年始から始まった感染流行第3波のために1月8日から第5波が落ち着いた9月30日まで、途中で短期間のフリー

の時もあります。1年の3分の2に当たる時間を緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令の中で生活をしなければなりません。一般の人々もそうですが、飲食店や観光業界等の関係者は特に我慢を強いられた時だったと思います。

病院に關していうと、2020年中に陽性者だけでなく、発熱者や疑い患者、濃厚接触者に対する診療体制が出来ていました。2020年の1年かけて新型コロナウイルス感染症の知識を集め、それを当院に適應させて、当院独自の対策を敷いてきました。更に特効薬はないものの、陽性者に対する対処や治療法も確立されてきました。つまり、2021年初めにはマニュアルに沿って診療すれば良い状態になっていましたので、それを継続いたしました。

今考えると、当院内でPCR検査が出来ようになっていたことが2021年を乗り切れた要因と思います。院内感染を起こした2020年3月では、PCR検査は県にお願

いして施行してもらうしか方法がなく、その件数も限られていたため、どの人が感染しているのか分からない状態で、さらに経験のない病気を診療しなければならなかった。しかし、PCR機器導入後は3時間程度で感染症患者を同定することが可能となったため、落ち着いて診療することができたように思います。

昼夜を問わず

対応に追われた第5波

しかし、異常に感染拡大した第5波（7月下旬～9月上旬）の時は当院も大変でした。感染者数が多かった、さらに重症化する患者もいたことが要因ですが、これに関しては県から要請された、いわゆる確保病床数を超えて入院治療を行うことで対処しました。

私は新型コロナウイルス感染症が指定感染症、それも2類相当になっていることが診療を更に大変にした要因と思っています。2類感染症ですの、結核同様に全例報告、感染状況把握を保健所が行う必要があります。登録や濃厚接触者把握の時間が必要で、指示された病院に感染者が受診するのが夜になることも多く、昼夜問わずに対応に追われたことが

かなりの負担増になったと考えています。「医療を必要とする人が必要な時に医療機関を受診して治療を受ける」、この大原則に戻すことが医療崩壊を招かない方法と個人的に考えています。

医師・看護師を派遣し

ワクチン接種事業に協力

一方、2月からワクチン接種が始まりました。取手市では各医療機関で行う個別接種と、自治体が接種会場を設けて行う集団接種が予定されました。当院の場合、平日は受診される方が多いため、個別接種は日曜日のみとし、その代わりに取手市で行う集団接種の全会場に医師、看護師を派遣することで、取手市のワクチン接種事業に協力させてもらいました。

当初は接種をためらう方も多く、進捗を心配しましたが、1日100万人接種を実現するという首相の一言で接種者数も加速的に増加し、10月末には約8割の取手市住民が接種を完了しました。その効果とも感じますが、10月からの急激な感染者数激減が達成されて現在に至っています。

しかし、海外での感染者数の増加、

オミクロン株の市中感染など、2022年も新型コロナウイルス感染症との格闘が続きます。みなさまも感染しないように、また感染拡大させないように、普段から、特に会話時のマスク着用と手洗い（手指消毒）の徹底を今一度よくお願いいたします。

ダ・ビンチを使った手術を

泌尿器科と外科で開始

さて、コロナ以外で病院について2021年を振り返りますと、昨年の挨拶において病院の目標を「意識して働く」にしたことを記載しました。病院内には意識してコロナ対策、意識して働き方改革、意識して患者対応ということで1年間努力を促してきました。上記のようにコロナに關しては対応できたと思っていますし、働き方改革についても一定の評価が得られたと思っています。残念ながら、患者対応に関しては工夫すべき点が複数見つかってきましたので、今後の継続課題として引き続き検討を重ねて対応策を作り、実践に移行するようにしたいと思います。

設備面としては、秋にロボット支援手術機器（ダ・ビンチ）を導入致しました。導入が決まってから3か

月間、関係するスタッフは休みを返上してトレーニングを重ねて準備し、12月からダ・ビンチを使った手術を開始いたしました。今年は泌尿器科の前立腺癌の全摘出術、骨盤臓器脱（子宮脱など）の固定術、外科の直腸癌摘出術を中心にダ・ビンチ手術を展開する予定です。

私は内科医で手術のことはよく分かりませんが、学生時代に見ていた手術とは雲泥の差があり、技術の進歩に驚愕しています。ダ・ビンチを導入した理由は患者さんの侵襲性を低くすることです。つまり、傷口は小さく、視野を良くして出血を最小限にし、更に機械だからこそ可能な自由自在で繊細な動きで合併症を極力減らすことが目的です。まだ進水させたばかりですので、軌道に乗るまで時間がかかりますが、1人でも多くの患者さんが恩恵にあずかることを期待しています。

Webを活用し講演会や

トピックを動画で配信

これもコロナのお陰ですが、webの活用を始めたことも2021年の変化と思います。以前のように集会を開いての講演など簡単に出来なくなりました。一昨年からwebでの

学会が始まり、ある病院のリハビリ療法士がYouTubeを通して外出自粛中の人々に運動を促す動画を配信するなどの動きがありました。

他の病院より、若干出遅れた感がありますが、当院でもweb会議室を作り、そこから病院の情報を発信することを始めました。現在、webで病院内の公式行事や、取手市医師会や連携医の先生方向けの講演会を行ったりしています。

また、公開の制限はありますが、当院のトピックをホームページから動画で配信しています。手探り感はいえませんが、webはwebで良いところが数多くありますので、今後も質を上げながら情報発信していくつもりです。

今年の目標は

「選ばれる病院への第一歩」

2022年、干支は壬・寅（みずのえ・とら）です。壬寅は「陽氣を孕み、春の胎動を助く」の意味があり、縁起の良い干支と感じています。そんな中で当院の目標を「選ばれる病院への第一歩」としました。昨年のやり残した患者対応の件を踏まえての目標です。サー

ビス業ですので、患者さんから当院を選んでもらって受診していただくのは当然ですが、その他にも近隣の医療・福祉施設や関係する行政等から選ばれる、更には就職先としての選択など、様々な点で選ばれる病院になろうという意味になります。

しかし、この目標は非常に大きいので、その第一歩を付けさせていただきました。小さなところから始めたと思っています。おかげさまで2020年の受診控えによって激減した患者数も回復していますが、コロナ前に比べるとまだ少ないことには変わりありません。病気の人が少ないことは良いことなのですが、病期が進行してから受診されるケースも目立っていることも事実です。

いかなる状況であっても「医療を必要とする人が必要な時に医療機関を受診して治療を受ける」が可能となるよう、それも安心して受診いただけるように職員全員で努力して参ります。そして壬寅の意のように、コロナ禍という厳しい環境から春を迎え、当院が強く成長していく年にしたいと思っています。

私はもう少しの辛抱と思っています。みなさま、これからも力を合わせてこの禍を乗り越えましょう。2022年もJAとりで総合医療センターをよろしくお願いいたします。

おすすめ郷土料理



秋田県の郷土料理

きりたんぽ



秋田の郷土料理の代表ともいえるきりたんぽは、鍋の他にも味噌をつけて焼いて食べる「味噌たんぽ」もあります。

きりたんぽの発祥は、秋田県の県北地方ですが、起源や語源に諸説あります。きりこ達が山作業の際に残り飯を長い棒に巻き付けて、味噌をつけて焼いて食べたのが始まりだという説もあれば、マタギ（猟師）が食べ残したご飯を鍋に入れて食べたのが始まりだという説もあります。また語源には、槍の先につけるさや（たんぽ）と似ていたためという説や、蒲の穂の形に似ていたためという説があります。

材料 (4人分)

きりたんぽ・・・260g
比内地鶏
(鶏肉でも可)・・・200g
ごぼう・・・40g
舞茸・・・120g
長ネギ・・・80g
せり・・・90g
白滝・・・120g
薄口醤油・・・20cc
みりん・・・4cc
塩・・・2g
酒・・・8g
だし汁・・・400cc

作り方

- ① 比内地鶏、舞茸、長ネギ、せりは一口大に切る。ごぼうはさがきにする。
- ② だしをひと煮立ちさせてから、鶏肉、ごぼう、舞茸、白滝を入れる。煮えたらアクを取り、薄口醤油や酒、みりん、塩で味付けをする。
- ③ 食べやすい大きさに切っておいたきりたんぽと長ネギを入れて、蓋をしてひと煮立ちさせる。
※ネギはしゃきしゃきと歯ごたえが残るくらいがおいしい！
- ④ 最後にせりを入れ、香りを出す。
※セリは煮込まないようにする。

エネルギー 272kcal
たんぱく質 12.5g
脂質 7.6g
食塩相当量 1.4g



注意が必要な柑橘類

・グレープフルーツ ・はっさく
・夏みかん ・ブンタン など
・ダイダイ

薬との影響が少ない柑橘類

・温州みかん ・レモン
・カボス ・ゆず など
・パレンシアオレンジ

① グレープフルーツと多くの薬（降圧剤など）
薬を日常的に服用している患者様なら一度は聞いたことがあるかもしれません。グレープフルーツは体内で薬を分解する酵素の働きを阻害します。この酵素は多くの薬の分解に関与しており、体内で薬が分解されず薬が効きすぎてしまいます。この反応はグレープフルーツを摂取してから3～4日間続くと言われていいますので注意が必要です。他の柑橘類について気になる方は左の表を参照してください。

② 納豆とワーファリン

ワーファリンは昔からある代表的な血液をサラサラにする薬です。この薬は、体内でビタミンKの働きを阻害することで血液をサラサラにします。しかし納豆には多くのビタミンKを含んでおり、加えて納豆菌は腸管内でもビタミンKを産生し続けると言われています。このように納豆はワーファリンの作用を弱めてしまうため注意が必要です。現在ではワーファリン以外の血液サラサラの薬が多く開発されており、それらの薬は納豆と服用しても問題ありません。

③ アルコール

アルコールは日常的に摂取されている方が多いと思います。アルコールは睡眠薬や向精神薬の作用を増強し、物忘れやふらつき・転倒・めまいなどの様々な症状を引き起こす可能性があります。他にも一部の抗生物質などと摂取すると、二日酔いの作用を増強させてしまったりすることもあります。また、長期間飲酒をしている方は一部の薬が効きにくくなることもあるので、飲酒は適切な量を心がけることが重要です。

今回あげた事例以外にも多くの事例が報告されています。食品との飲み合わせで気になることがある場合は医師や薬剤師に相談しましょう。

医療費の二情報

「DPC」について

当院はDPC対象病院です。DPCとは、急性期入院医療の診断群分類に基づく1日当たりの包括評価制度です。

DPCの主な特徴は、

- ・病名や診療内容に応じて厚生労働省が定めた1日当たりの診断群分類点数に基づいて医療費を計算し、入院中の検査や投薬、注射等の診療が1日当たりの入院点数として包括されます。
- ・手術、胃カメラ、リハビリ等の医療費は出来高算定方式（診療ごとに設定された点数を合計して医療費を計算する方式）となります。
- ・入院中の食事料金は患者さんの自己負担となります。

なお、お産、労務災害、交通事故等の自由診療で入院された患者さんは、出来高算定方式の対象となります。

詳細については、「入退院受付・会計」窓口でお尋ねください。





取手市民生委員児童委員



取手市西部地区民生委員児童委員協議会 会長 坂元洋一郎さん（左）
取手市中部地区民生委員児童委員協議会 会長 大友博子さん（右）

いつも見守り、
声をかけて傾聴する

取手市内には、地域の身近な相談相手として活動されている民生委員児童委員（以下民生委員）の方が現在189名おります。今回、取手市西部地区民生委員児童委員協議会会長の坂元洋一郎さんと取手市中部地区民生委員児童委員協議会会長の太友博子さんにお話を伺いました。

取手市内は7地区（東部、取手、白山、中部、西部、戸頭、藤代）に分かれていて、1地区におよそ20～55名の民生委員の方がおり、平均で一人279世帯を受け持っています。親子何世代も続いている地域や新しい世帯が増えている地区、また商業地域や農業地域など各地域ごとに特性が違いため抱えている問題も様々です。

中部地区の会長を務める太友さんは、「高齢化率が高く一人暮らしが多い中原地区でアンケート調査を行ったところ、一人一人様々な支援が必要であることがわかり、地域包括の方達と情報共有し丁寧に見守っていかれたらと思います」と話してくださいました。

西部地区の会長を務める坂元さんは、「民生委員の基本的な役割は、地域の方々のお話をよく傾聴し

見守ることで、支援などの必要があれば公の機関へ繋ぎます。お金に関わるようなプライベートな世界にはいっさい立ち入らないでご家族にお願いするようにしますが、実際には家族関係が疎遠だったりする場合があり支援の狭間と向き合うこともあります」と話します。

11月から12月は毎年年末に行っている社会福祉協議会委託事業のカレンダー等の配布を、70歳以上一人暮らしの方々を対象に安否確認を含めて行ったとのこと。

人間ドックの受診や定期的な運動、食事の量と質に気を付けるなど健康管理もしっかりされているお二人。「色々な方と接することができたのが宝物です」、「背景に諸問題をお持ちの方からお話を聴くことで自分の人生勉強になります」と話し、民生委員を続ける上でご家族のご理解とご協力が大切なことも強調されました。

地域の方々の生活をいつも見守り、日常の中で何気なく声を掛けてくださる民生委員の方々。高齢化の時代だからこそ大切な存在だと感じました。



院長 椎貝 達夫

開業して間もなく12年になります。内科ですが特に慢性腎臓病の保存的治療を51年間続けています。最近の3カ月の腎臓病の新患は8月18人、9月22人、10月27人で、かなり遠方からの方も見えています。24時間蓄尿をしてもらう、血圧は家庭血圧を中心、腎臓病ノートを用いるなど、治療方法は充実しています。

ほかに高血圧900人、糖尿病400人、脂質異常症600人

連携医のご紹介

医療法人社団 春望会
椎貝クリニック

院長 椎貝 達夫

診療科目 内科 CKD（慢性腎臓病）中心

診療時間 午前：月・火・木・金・土 9時～12時
午後：月・火・木・金・土 14時～17時

休診日 日曜日・祝日・水曜日

連絡先 TEL 0297-84-6751
〒302-0014 取手市中央町2番25号
取手iセンター3階

を診ています。脳卒中の予防に力を入れ、家庭血圧の収縮期を135mmHg未満にすることで脳卒中発症ゼロが続いています。

消化器系のスクリーニングは、JAとりで総合医療センターの先生方をお願いしています。

毎月の情報提供書の発行数はかなり多く、連携はうまく行っていると思います。

認定看護師会から

感染対策を継続し 感染症の予防を

感染管理認定看護師
高橋 将



ここ2年インフルエンザの患者が激減しています。その理由として新型コロナウイルス感染症と実施する対策が同じだからです。新型コロナウイルス感染症にならないよう咳エチケット（マスクの着用）や手洗い、手指消毒などを実施することが当たり前になりました。それらの対策は、病気の原因に関わらず行う標準予防策と同じで、感染対策の基本になります。



公民館などでの出前講座でも感染対策についてお話ししています。

コロナ禍で習慣化された感染対策（特に手洗い、手指消毒）を今後も継続して行いインフルエンザなどの感染症予防に繋げていただければ幸いです。

認定看護師会では、各分野で注目の話題を発信していきますのでよろしくお願いいたします。